

平成 29 年度 第 1 回高鍋町総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成 30 年 3 月 2 日 (金) 午前 10 時 25 分～11 時 55 分
2. 会 場 高鍋町教育研究所
3. 出席者 6 名 (全員出席)  
高鍋町長 黒木 敏之  
高鍋町教育委員会 委員長 黒木 知文  
委 員 小泉 桂一 四角目 久美子 杉田 淳子  
教育長 島埜内 遵
4. 事務局 高鍋町教育委員会 教育総務課長 野中 康弘 教育対策監 黒木 倫徳  
教育総務課長補佐 坂元 貴之
5. オブザーバー 高鍋町教育委員会 社会教育課長 稲井 義人
6. 議 事

(開会 午前 10 時 25 分)

事務局 (坂元) それでは、ただいまから、平成 29 年度第 1 回高鍋町総合教育会議を始めさせていただきます。はじめに、会議の主宰者である黒木町長がご挨拶いたします。

黒木町長 皆様、こんにちは。本日は大変お忙しい中を総合教育会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また日頃から、高鍋町の教育行政の推進にお力添えを賜っておりますことに感謝を申し上げます次第でございます。きょうは、高鍋町の教育大綱の改定に伴う協議をしていただきますことと、また、中学校の統廃合あるいは、高鍋町の文化活動、特に高鍋神楽等の件についていろいろご意見を賜りながら、意義ある会議にしていければと思っております。どうぞ、今日はよろしく願いいたします。

事務局 (坂元) ありがとうございます。それでは、会次第に沿って進行をさせていただきます。ここからの進行につきましては、黒木町長にお願いいたします。

黒木町長 はい。この会議は町長が進行させていただくということでよろしく願いします。それでは、高鍋町の教育大綱の改定についてでございますが、この後、私の考えを述べさせていただきますが、まず、この改定案の概要について事務局から説明させていただきます。

事務局 (野中) はい。それでは、改定案の概要について説明をさせていただきます。まず、大綱の策定に関しましては、法律に基づきまして町長が策定するよう義務付けられておりますけれども、策定にあたって記載項目があるわけではなく、各自治体の実態に応じて、各自治体の判断により、策定することとなっております。

本町の大綱の構成については、目標とする高鍋町の将来像と教育の基本方針に基づき、7つの基本目標と大きく2つの教育の重点施策を核として、大綱を策定しております。

それでは、資料2「高鍋町教育大綱(改定新旧書込版)」に基づいて説明をしたいと思います。

資料の2をお開きいただいでよろしいでしょうか。表紙をめくって1ページをご覧くださいと思います。まず、改定の趣旨でございますけれども、現在、本町では、『歴史と文教の城下町 たかなべ 対話でつながる豊かで美しいまちづくり』を将来像とした第6次の高鍋町総合計画前期基本計画、通称 高鍋みらい戦略と称しておりますけれども、こちらを昨年10月に策定し、今現在まちづくりを進めていること、また、人口減少が進展する中で、子どもたちが将来の地域社会の担い手として活躍することのできる基盤を築くために、教育の

果たす役割がこれまで以上に重要になっていること、現在の大綱が、今年度、29年度末で期限を迎え、今後も、将来に渡って教育の充実、本町が目指す教育の姿を実現することが必要であることから大綱を改定することを明記しております。

今回改定する大綱に基づきまして、社会情勢の変化や国・県の教育施策を勘案して、町長・教育委員会の両部局がこれまで以上の連携のもとに、教育行政を推進していくということで記載をしているところでございます。大きく変わったのは、高鍋町総合計画の改定がなされたことによりまして、それに基づく教育施策を進めていくことを明記したものでございます。

2 ページをお開きください。計画期間として、大綱の計画期間を平成 30 年度から平成 32 年度までの 3 年間という形で改定をしております。なお、定期的な見直しだけではなく、必要に応じて見直すこととすると定めているところでございます。

3 番目、高鍋町の教育基本方針、(1)目標とする高鍋町の将来像につきましては、先ほどご説明いたしましたように、本町の長期的な町政運営の方向性を規定しました高鍋みらい戦略に掲げます高鍋町の将来像との整合性を図っております。第 6 次の総合計画、高鍋みらい戦略の将来像から文章を抜粋して記載をしているところでございます。

3 ページをご覧ください。(2)教育の基本方針につきましては、現在の大綱からほとんど変更点はございません。赤で表示した箇所について、若干の加除修正、表現の改正等をおこなったものでございます。

4 ページをお開きください。(3)の教育の基本目標につきましても、現在の大綱から大きく変わっているところはございません。赤で表示した箇所が修正箇所ということで、特に目標の 2、石井十次先生の「なせよ屈するなかれ」の言葉ですね、こちらのほうを目標の記述の中に盛り込んだところでございます。注の 2 として、「なせよ屈するなかれ」の説明書きも併せて加えたところでございます。

5 ページ、6 ページからの(4)教育の重点施策につきましては、前回の大綱を基礎といたしまして、高鍋みらい戦略や、昨年 2 月に就任されました黒木町長の施政方針等に沿った改定を行っております。今回、新たに追加した箇所につきましては、赤字で表示をしております。

施策 1 の学校統合を含む学校の在り方検討の推進と、施策 2 の赤書きで記載しているところは、前回からの追加、修正箇所となります。施策 3 の心豊かな児童・生徒の育成につきまして、今の大綱につきましては、問題を抱えるという表現にしておりましたけれども、表現を変えまして、教育的な配慮を必要とするという形に改めさせていただいたところでございます。

6 ページ、最後のページの施策につきましても、赤書きのところが追加、修正の箇所となります。施策 3 のみんなで子育てをする環境づくり、これまでは学校支援地域本部事業の推進としておりましたけれども、先だって研修会をした時に、これからは、それが一歩進んで、地域学校協働活動ということでこれから事業が進捗するというお話がありましたので、この文言に修正をしたところでございます。説明については以上でございます。

黒木町長

はい。ありがとうございます。改定に当たっての私の考えをお伝えさせていただきます。

改定の最初の 1 ページのところでございますけれども、基本的に私の施政方針といえますか、高鍋町のビジョンというものを伝えさせていただいております。今回の第 6 次の総合基本計画の中にも入れさせていただきましたけれども、高鍋町のみらい戦略ということで、ここにありますように『歴史と文教の城下町 たかなべ 対話でつながる豊かで美しいまちづくり』、文教の町とだけ言われたのを、歴史と文教の町ではなく城下町なんだというのを強く意識しておかないと、城下町らしさがどんどん薄れていく。逆に城下町らしさがどんどん

ん強まっている町もあるわけなんですよね。そういう意味では、地域の個性をはっきり強く打ち出していくことが大変重要な時代ですので、城下町というのをはっきり入れさせていただきました。豊かで美しいということで、豊かというのはここにもありますように、経済的にもですし、社会福祉、教育も含め充実した生活のできる町であり、若者がチャレンジできる、高齢者が豊かに長生きできる豊かさであり、美しいとは住環境もそうですし、道路、公共あるいは様々な自然環境もですね、美しい町、それが私達の求めるビジョンであると。その意味でのことに文章を変えさせていただきました。高鍋みらい戦略と銘打った第6次の総合基本計画の文章をここに持ってこさせていただきました。

続きまして2ページの高鍋町の将来像ということで、やはり将来像が今までやっぱり個性、最近特に地域ブランドというまず個性、うちの町の個性はこれだと言葉で伝えること、そして住んでいる人がそのことを誇りに思っているということがとても大事で、それが長く続いている。長く続くということは、常に改革しながら、改善しながら努力してそれを守ろうとしてきたというのが大事で、その個性をはっきりとさせるなら、この地域周辺を見ても高鍋の最も個性的なところは歴史と文教の城下町であるということをはっきり銘打つことが大事であると。対話でつながるといのが、これは役場の人たちがつけられたんですけど、対話でつながるといのは、今、協働という言葉がよくありますけれども、人口減少していく中、行政の人間もどんどん減っていくわけですね。民間がある意味では行政を支えるような時代、民間と行政がともに地域を支える時代ですね。そういう中では町民の皆様お一人お一人の意見を活かしていく、お一人お一人の考えを町づくりに活かしていく上で対話をしていく。行政と住民の方々が対話をしながら町づくりをしていきたいと思います、そして豊かで美しい町にしましょうと。そういう将来像に向かって具体的に書いているのが下の文章でございます。

それから3ページですけれども、3ページは教育の基本方針、基本的には一緒ですけども、今、未曾有の時代が、大きく変化をする時代です。これ、時々使わせていただいているのが、この間のダボス会議のトルドー首相の言葉で「今ほど、これまでで時代が大きく変わっていきこうとしている時代はない。しかし今後、これから先はこれほどゆっくり変わった時代はないだろう。」というぐらいものすごく変化する時代になるようでございます。そういう意味では、技術革新というのが非常に大きいわけですね。だから、技術革新によるこのを入れるのと、まさにI o Tとかインターネットとか、第5世代の通信網になるそうですから、ものすごいネットワーク。車も自動運転で1ミリか2ミリの差もなく、人間が運転するよりも正確に通信網が流れる時代になるそうですから、そういったグローバルに国際化、そういうインターネットの情報化、人口減少もびっくりするくらい、2030年くらいまでには東京の人口も減りはじめるそうですから、ものすごい人口減少の時代ですし、高齢化ものすごく進んでいくわけでございます。そういうのは入れて、それを意識しての基本方針であるべきだろうということで言葉を入れさせていただきました。その下の歴史と文教、文教の町だけではなくと申しましたように歴史があって文教、歴史とはなんだというのも明確にすべきで。高鍋の歴史は古墳時代から、あるいは秋月家が来て500年くらい、500年ちょっと。高鍋町の荒地を常に改革しながら、ここは田畑が潤う、あるいは炭とかいろんな産業を興しながら、蠟燭とか。常に改革をしながら成り立ってきた町である。だから歴史とはまさに改革をしてきた歴史だという歴史認識をはっきりさせること。そして文教という言葉も非常に曖昧でして。文教といわれると明治時代の文部省の政策かなというふうに受け取って。私は文教というのは高鍋の場合は、藩校明倫堂とかその辺のところがあったのことで、人材が育つというのが文教の意味だと思いますね。人材を育てなきゃいけない。改革の歴史の中

で人材を育てる文教のもとにある城下町であると位置づけて、歴史と城下町というのを入れさせていただいております。

続きまして4ページの目標1の明倫の伝統を受け継いだとありますが、この明倫というのも少し曖昧なような気がするのです。それと明倫という言葉は全国、いろんなところで使われていた時代があったようでございます。私はあまり歴史に詳しくないんですが、朱子学とか士農工商とか、ああいう封建制度の中で非常に役立つ考え方だったみたいですけども。全国、明倫という言葉はあるけれども、高鍋の場合は、藩校明倫堂の伝統を受け継ぎというふうに、藩校明倫堂と入れた方がいいのではないかとということで入れさせていただきました。

それと、石井十次先生の中の人間愛の精神だけではなくて、私が石井十次顕彰会の理事をやっていた時にいつも思ったんですけど、石井十次先生は雲の上の人、あんなすごいことはできないと、とてもじゃないけど自分を犠牲にして、ああいう人を救うようなことはできないというようなことを言われる。雲の上の人だからまねできないというのであつてはいけない部分があるのではないかとということで、なわの帯賞というのを設けたりして、子どもたちに。その根本にあったのはやはり、ちょうど時を同じくして安倍首相が「なせよ屈するなかれ。時重なればそのこと必ずならん」という言葉で、施政方針で言われたというのはものすごくすごいことですね。石井十次先生を、安倍首相はチャレンジした人石井十次、屈することがなかった人石井十次と捉えておられていて、このことの方がより子どもたちに伝える部分がある。もちろん、この人類愛とか、人を愛するとか、人を救うというのものもあるけれども、それと同時に「なせよ、屈するなかれ」、このチャレンジ精神、常に物事に屈せず、チャレンジするというのも受け継がせようということもあつたらいいなど。ちょうど、掛け軸で「なせよ、屈するなかれ」という言葉も、全ての学校に置かせていただきましたので、この言葉を入れるといいのではないかと思います。チャレンジ精神と言うのは、挑戦する心と日本語にした方がいいのかなとか考えましたが、チャレンジということの方が今の子ども達にはいいのかなということで、チャレンジと。

道義を究明し、道義を正し、道義というのはなかなか難しい、わかりにくいなど。道義を正しというほうがいいのかと思って、言葉として入れたところでございます。目標5については、学校、家庭及び地域住民等がとしたほうがわかりやすいのではないかと、歴史と文教の城下町というのは、そういうことでございます。

5ページの学校統合を含む学校の在り方検討の推進ということで、私が選挙に出たときに一番言われたのが、高鍋高校が定員割れをしているということに対して、一クラス以上、中学校の子ども達が宮崎市内へ。それと今度は、西都市の妻高にも引っ張られる可能性も出てきているということで、中高一貫の考え方を導入したらどうかという意見も多々ございましたし、中学校の子ども達も減っているということで、統合を含む学校の在り方検討の推進というのが必要であろうということで加えさせてもらいました。

施策の2のほうも、学力の向上をするための、力を入れましょうということですね。

中高連携からの中高一貫、先ほど言いましたように、そういう流れの中であるべきではないかとございまして。キャリア教育の推進というのは、今、県とか国でもどんどん進めていますけど、キャリア教育とふるさと教育というので、私がこの間、宮崎キヤノンの桑原社長と会ったら、去年も募集して新卒の子が来ないと。あれだけ働く場がほしいんだと言われて作っても来ないと。どうも学校から子どもたちが一旦、東京とか名古屋とか大阪にどうしても行ってしまうようございまして。これは、ある意味では、キャリア教育が必要なんじゃないかと。私、いろいろ調べたら、名古屋、愛知県が一番地元就職率が高いですね。

名古屋はわかるんです、工業地帯だから。実は、二番目に富山県がきてるんですね。越中富山、薬売りとかいろいろ会社があるんでしょうけど、富山県の教育のしかたがですね、キャリア教育が学校の先生、それからコーディネーター、そして地元の企業が一緒になって、地元で働く、地元で生きていくということがどれだけ重要かということ、そこで取り組んでいるんですね。子どもたちが地元で働く、それは大きい会社じゃなくても小さい豆腐屋さんであり、うどん屋さんであり、そういう人たちが子どもたちを単なる受け入れるだけの今の職場体験ではなくて、ふるさとで生きることがどれだけ素晴らしいことかということのをですね、取り組んでおられる。農業高校に聞いたらコーディネーターはいるけど、先生達が忙しいから就職の窓口においでいるとかですね、本来、コーディネーターの人は、子どもたちと地元の会社とか、農業とかそういう体験をして、そこで地元で生きるということの意義を伝えることが大事だと。そういう意味ではふるさと教育というのもですね、ただの町の歴史とかを伝えることではなくて、ふるさとで生きるということの意義を、これから人口減少の中で君たちが地元を支えるんだというような意識をですね、こういうところを小学校からやっけないと、どうも、その、キヤノンさんが工場を作ったけど人が集まらないのはどうということですかとなると思うんですね。実はこの間、キヤノンの社長以下お見えになった時にも、小学校、中学校とか高校にも出前講座でキヤノンの色々な技術の授業とかですね、やることでキヤノンに勤めることはあこがれた、そんな意識を育てていくような、地元で働く、地元で生きていく、それはものすごく重要なことだと自分は思っています。特に宮崎県は、2年前は地元就職率は最下位ですね、全県下の中で。50%くらいだったですね。やっと今、下から3番目、4番目、似たようなもんです。キャリア教育の差は、特に富山県との差は、これ非常に、方針の大きさの違いを感じているところでございます。

3番目の教育的な配慮を必要とする、今、いろいろな今、問題を抱えている、障がい児もそうですけど、発達障害とか、家庭で、ネグレクトですね、虐待を受けていたりとか、いろいろな母子どもの教育も含めた上での、こういう問題を抱えるところの取組が非常に重要な時代になってきているということでこれを加えさせていただいております。

最後6ページですけども、ここにありますようにスポーツ少年団、これとても大事な活動であります。あと、図書館の整備、これに関しましては非常に重要だと思います。私、選挙運動やったのは3つだったんです。図書館なんかしろというのと、2つ目は駅にエレベーターを作れということですね。3つ目は役場内の改革をしてくださいというのがありましたんですけど。図書館については、どうもっていくかが非常に重要なんです。いろいろ大きな建物を作ってしまった場合、人口減少の中でコンパクトシティというのを目指さなきゃいけない時に、維持管理をものすごく大きくするような、費用のかかるような大きい建物を作った場合、大変なことになる。僕はそれで失敗している町はいくつかあるなというふうには思うんですね。民間、薦屋とかを利用しているところもありますし、今、高鍋らしい図書館にするにはどうするかというのを、具体的にはまた、これから検討するところは必要ですけど、今あるものを活かしながら、特に古文書が、この間、住友資料館の末岡副館長がお見えになって、こんなに古文書のあるところは珍しいですよ。これは大きな財産ですよと言われました。古文書を大事にするような古文書講読館、姉妹都市にもありますけれども、そういう場所。子どもたちが勉強をする場所、それから、ふるさとの情報を残していく。あるいは、ビジネス、仕事をするための情報を発信したりする場所。図書館というのも、人が図書館をほしいといった時には、本を借りたいんだという人、これ、今最近は多くないんだそうですね。あるいは逆に、勉強したい、静かな場所に行きたいといった機能性。それから、ふるさとの情報

を知りたい、ふるさとの歴史を知りたいから行くんだ。あるいは、子育てをするから行きたいんだと、図書館に対するいろんな機能性と要望があるみたいですので、それをいろいろ勘案しながら、大きい建物を造るよりは今は今ある建物、あるいは、そういう機能性に合わせたもの造っていく必要が大事だろうということ、学校の図書館と図書を繋いで本が常に移動するような、そういう仕組みがあるといいのではないかとということでこれも加えさせて、そういうものを構築していく上で大事だろうということで入れました。

2番目ですね、歴史と文教の城下町たかなベシンポジウムですね、これ、昨年、鈴木馬左也さんのシンポジウム、ことしは、ふるさと明倫堂240年設立シンポジウム。来年は、秋月種茂公生誕200年シンポジウム、毎年、こういうソフト面での城下町という認識を広めるにはとても大事だと思います。特に、去年行いました鈴木馬左也シンポジウムは、宮泉会、宮崎と鹿児島に住友系のグループの方たちが、シンポジウムの後、すぐお見えになりまして、こういうことをするんだったら、早く声をかけてくれれば協力したのにとということで、お金も出したんですよという言われ方をされました。それから、お墓の整備ですね、鈴木馬左也公の。その話をしましたら、御寄附をしたい。これは、住友グループで協力したいということでしたんで。もう一つ、これもどうなるかわかりませんが、鈴木馬左也亭もですね、何か整備するなら協力したいということで。やっぱり、やってみるもんだなとかですね。やはり、高鍋の偉人の人たちというのは、全国的にもすごく影響力を持った人たちが多くて、鈴木馬左也さんの名前を出してシンポジウム開くことひとつで住友グループが動くんだなということを改めて驚いているところでして。こういうような城下町としての文化的なソフト面というのは、次の世代に繋いでいく必要があるだろうというふうに思うところでございます。

それから、高鍋神楽を国指定文化財、これも実はユネスコの世界遺産に宮崎県の神楽がなるということでお聞きしましたら、これは高鍋もなりますかと、いや、これは国指定になっておかないとユネスコの文化遺産になりませんよと言われてですね。急遽、教育長にお願いしてやりましょうということになりまして。あと、2年か3年後には国指定を目指します。国指定になることでユネスコの文化遺産にもなるということですね。やはり、高鍋神楽というのが、この郡内はみんな都農までは高鍋神楽と呼んでいるわけですし、こんな立派なものやっているとするのはとても大事ですし、もう一つは後継者の育成、できれば中学に鳴野棒おどり、高鍋神楽の伝統、そういうのを受け継ぐような子ども達のサークル活動とかあるといいんじゃないかと思います。神楽をやっている人たちも少ないですし、子どもの神楽を、高鍋神楽の指導をやっているのは川南でやっているとか聞いて、なんで高鍋に無いのかなどと思いますし、こういうものの取り組みは非常に大事ではないかというふうに思っています。

持田古墳群を世界遺産へということで、これも西都原古墳群と繋がる。それが、新富古墳群と生目古墳群が繋がる。高鍋がまだ連携してなかったんで、昨年、連携させていただきまして、西都原と含めての世界遺産へという動きがあります。それと、花守山と持田古墳群の間の森林を伐採して繋いでいこうという計画もありますんで、そのような中で、そういう持田古墳群も高鍋の歴史にとっては非常に重要なものであり、いろんな方が来られる、見学に来られます。はっきり個性としてきちっと具体的なふうに入れた方がいいだろうということで入れさせていただいたところでございます。

3番目は、地域学校協働活動というのが入っています。協働ですよ、民間の力を利用しようということ、様々な対話でつながるといのが、一般の住民の方と話し合いながら進めていこうという言葉としての協働が入ったということでございます。これで説明に代えさせ

ていただきます。今の説明にご質問、ご意見があれば、よろしくお願ひします。言葉とか、文言とかでも、何か。

小泉委員 町長、今、これ、よく話で「歴史と文教の町」と言っていました、それを今度からは「歴史と文教の城下町」とつけると、広めていくと・・・

黒木町長 城下町と入れないと、実は武家屋敷通りもなんか、しっかりせんかと、武家屋敷通りとは言えないのではないかといろいろ言われるんで。できればお城址ももう少し整備して、私どもが小さい頃は一番上に登ると海まではっきり見えていたのが、どうも森林が茂ってですね、一番上まで登る人が誰もいないような状況になっているんで、城址の整備からお堀周辺から武家屋敷通り、鈴木馬左也亭、それから、古民家再生も今、いろいろと取り組んでいかないといけないというのがありますんで、「城下町だ」というので、歴史と文教の城下町たかなべというふうにしたところですよ。いいでしょうかね。周りは城下町とは言えないんですよ。基本、本当に城下町と言えるのは延岡、高鍋、日南だけということ。お城もどきを造っているところは色々ありますけれども、そういう意味では個性としてはあるのかなと思うところですよ。

四角目委員 そのことでよろしいでしょうか。3ページのところの(2)の教育の基本方針のところなんですけど、3行目の終わりのところに「いかに時代が変わろうとも変わることはありません。」とあったんですが、3ページの一番終わりの方ですね。「どんな時代でも変わることはありません。」とした方が、変わるが2回続くので・・・。

黒木委員長 「この使命は変わることはない。」ということですよ。

四角目委員 そうなんですよ。

黒木町長 最初の変わるは、時代ですね。その後の変わるは使命のことなんですよ。変わる、変わるとなると、おっしゃるように言葉じりがなんとなく・・・。確かに使命の場合は、ミッション、貫くぞということであれば、いかに時代が変わろうとも貫いていかねばなりませんとか、使命はいかに時代が変わろうとも果たさなければいけませんとかいう言い方もあるかもしれませんね。どうですか、言葉の選択は・・・。

四角目委員 このままでいいと思います。

黒木町長 いいですか。でも、四角目さんのおっしゃることはよくわかるんですよ。時代が変わっても使命は変わってはならない、この使命はいかに時代が変わろうとも果たさなければなりませんとかいうのもあるかもしれませんね。

四角目委員 どんな時代でも変わることはないんですよ。いいです、このままで。

黒木町長 いいですか。貴重なご意見で、なるほどなと思うところなんですけどね。

島埜内教育長 別件でいいですか。

黒木町長 はい。

島埜内教育長 町長が先程説明されたんですけど、対話でつながるといふ部分ですよ、そこをもっと具体的に・・・。

黒木町長 これ、私じゃないんですよ。対話でつながるといふのは、僕、第6次総合計画の素晴らしさは何と言っても、自分はどこかコンサルの会社に頼んで作っているんだろうとか思ってたんですけど、これ、役場の皆さんで作ってるんですよ。だから、ただでできてるんですよ。これは、お金をかけずによくやられるなとびっくりしたんですよ。ただ、やっぱり、作られる中で言葉が役場の皆さんの中に出てくる、役場の皆さんの中に出てくる対話でつながるだろうと思うんですよ。これ、対話でつながるとか協働とかという言葉は、国の方針で「まち・ひと・しごと」改革、あの中でよく出てくる言葉ですね。民間がある意味では人口減少、高齢化社会の中で、民間が行政とともに支えあいながらいく時代ですよ。前は、税金を払ってる

んだから行政がやってくれないと困るじゃないと言っていた時代から、もう、行政もスリム化、人口も減る、行政も減る、これは皆さんと共に町づくりをしていく時代ですよ。この人口減少の厳しい時代、高齢化社会の中で対話でつながるといのは、民間と行政が話し合いながら、そしてつながっていく。もうひとつは、公民館活動とかがものすごく大事な時代になって、支えあう、つながりあう、助け合う時代では、やっぱり、一人ひとりが会話を交わしながら助け合っていきましょう、支えあいましょうという時代ですね。

もう、後20年ちょっとで、お年寄りの一人住まいがものすごく増えるみたいですし、3軒に1軒は空き家になる、確実にそんな時代になる。我々気づいていませんけど、ものすごい時代になっていくんですね。そういう意味で対話でつながる、支えあう、行政と民間が支えあうという意味で対話でつながるとい言葉は、「まち・ひと・しごと」創生の中で出てくる言葉ですが、そういうふうに使っているんだと思います。

黒木委員長

よろしいですかね。まだ、ちょっとまとまらないんですが、「歴史と文教の城下町」、学校教育におきましては、5ページで先程町長が強調されたキャリア教育の推進、それから、ふるさと教育の推進、これを学校教育で取り組むと。社会教育ではいわゆる施策の2で、「歴史と文教の城下町たかなベシンポジウムの開催」がうたわれているわけですね。学校教育におきましてはこれまでに、キャリア教育の推進ということを高鍋の教育研究所で、キャリア教育の推進ということに取り組みました。そして、各学校でも教育課程の中に、ここでキャリア教育ができるぞと、そういう計画ですね、学校の教育計画を作りました。それから、ふるさと教育につきましても、何年か、やっぱり研究所で研究をされて、そして、各施設にお願いして、ふるさと高鍋を知ってもらうために、生徒さん方にいろいろと話をさせていただいたりとか、そういう取り組みをしております。やはり、今、お話を聞いて、確かにそういう取り組みをやっているんですけども、城下町としての何かこの、学校教育で取り組むというのがちょっと足りなかったかなというような、今、頭の中に浮かんでいるんですけども、それがひとつですね、学校教育で城下町というのを強調せんといかんかったかなと。それともうひとつは、先程町長さん、おっしゃいましたけど、いわゆる城下町、話が飛びますけど、私が高千穂小の校長をしている時、実は、上杉鷹山公の「為せばなる」というのを卒業式の祝辞の中で入れたんですよ。そうしたらPTA会長さんが高鍋町のお城に行ってみようかということで宮崎に用があった時に寄られたんだそうです。ところが、ただの石垣だけだったということを私におっしゃったんですよ。私が小さい頃は、鈴木馬左也亭だけではなくて、筏橋からちょっと行った所に、やっぱり、昔の門構えの家があったんですよ。だから、町屋だけではなくて城下町ともなれば、あの通りが、いわゆる殿様が入り出される道だったわけですね。それと、鈴木馬左也亭の所、あそこは、いわゆる江戸の参勤交代、あそこで（聞き取り不明）をしていた。あの辺りは、城下町、町屋だけではなくて、あの辺りの整備といいますかね、門構えだけでもいいから、そんなことを、昔をちょっと考えて、あの辺りの整備が大事じゃないかなと。学校教育では、城下町のもう少し教育をすべきかなと。今でも、キャリア教育、ふるさと教育をやって、その後に城下町としての取り組みがもう少し足りないかなというのと、城下町ならば、あそこの整備というのがもう少しされないといけないのかなと。もちろんお城もそうなんですけどね。

黒木町長

おっしゃるとおりですね。ちょっと重複いたしますがキャリア教育とふるさと教育をまあよくやっておられますが、水永さんですね、高鍋高校ご出身で旭化成の社長さんですが、今度高鍋商工会議所の中に事務所を作って積極的にやります。その富山県と宮崎県の違いですが、目的が明確なんです。故郷で生きる子を育てる、故郷で働く子を。そういう意味で目



標が明確であるとキャリア教育ふるさと教育も先生もコーディネーターも地域の企業もふるさとで、この街で生きていくんだよというこの地域でというのを。その目標を明確にすることがまず大事だろうと思います。

それとおっしゃったように、城下町という意味では、おっしゃったように昔の風情がどんどんなくなっていくのでどうしたものかと思っっているんですが、特にこの間1月にJR九州の会長の講演を聞く機会がありまして、七つ星の列車を開発された方ですけども、宮崎県ずっと各県七つ星の名所を止まるんだと言っていました、宮崎県では、全国の人たちの前で皆さん日南は素晴らしいですよとおっしゃるんですよ。日南という街はどこが素晴らしいかという、40年前からお城周辺には電柱ひとつない。それは住民の人たちがあの景観を守り、もっと育てようとするため、あの頃から地中に電柱を埋設していたということなんです、40年前から。これは全国でも滅多にない。素晴らしい。それを聞いて非常にショックと言うか辛くてですね。私たちの町はどうしていたのかなと思うとですね、消え去るままにできてしまっていたなというのがあってこれはどうなるだろうと思っ。ただですね、その去年ですね、長浜って滋賀県にあるんですけど、長浜の商店街から、まああの豊臣秀吉のこの城下町の流れの中にあって江戸情緒を残している黒壁スクエアというのを中心に江戸の街並みがある。私は2度ほど行ったことがあるんですけど、昔からこのまま残っているんだな、凄いなと思ったらその出身の人が20年ぶりに長浜に帰ってきたらものすごく変わっていたと。ボロボロの商店街が江戸時代のようになっていたと。そんな話があった。

黒木さん、20年かからずになるようになるんだよ街は。だからそこを目指そうというのがあるとそうなるんだという話を聞いて。今この近辺では臼杵なんかも一生懸命そういう方向でやっておられて、灯籠まつりのやり方自体からもそういうものにしていこうという方向があっ。また一つ一つを組み合わせて、ここを目指すというふうに明確にしながら取り組むといいんじゃないかなと。今年から城下町プロジェクトということで、ハード面でも古民家再生から昔の城下町の街並みにこの地域は絶対していくぞというのをですね、方向を決めて。それとこういうシンポジウムとか文化、ソフト面でも重ねていけば、まあ20年経たないうちに我々生きているうちにそういうのは再現するのは不可能じゃないんですよ。やっている街があるんだということですよ。ただ40年、日南とは遅れているんだという話をちょっと聞いたかもしれません。ちょっとショックでですね。そのぐらい地域の人たち、そういう意味では城下町であることを誇りに思っている。そして誇りに思っているからこそ、そういう子供たちを育てていって、こういう街並み景観を。特にどんどん時代がこうなるとそういう個性、あのインバウンドの人たちも城下町の町並みとか古民家の宿に泊まりたいとかどんな田舎まちでも来るみたいですから。そういうのを取り戻すには高鍋はもう遅いわ、手遅れだとならずにこれから早ければ10年後にはそんな町にしていきたいと思いますという取り組みをしようというのが大事だと思うんですよ。本当に家が建つのも今風の家ばかりなんで・・・

あの同感でございます。

黒木委員長

それともう一つ、いわゆる歴史。高鍋町民でも知らないようないわゆる歴史がある場所ですね。この間の懇話会では城の墓のことがちょっと説明がありましたけど、ほとんどの方は知らないですね、町民であっても。それで確かに町としていろんな取り組みというんですかね、社会教育なんかでも歩いて史跡巡りをするとか取り組みをされておりますけど、よそから来られて高鍋に住んでらっしゃる方が結構いらっしゃるんですよ。そういう人たちも含めて、高鍋の歴史的なポイントがいっぱいありますので、例えば、町でバスをチャーターし

なくてもいいんですけど、温泉バスなんかがありますよね。ああいうのを使って、20人ぐらいの単位で、施設には説明する人もいらっしゃる場所もありますけど、そういうのがないところなんかはガイドさんをつけて、バスめぐりそしてレストランなんかでいえば温泉で500円で昼食をとるとかですね。シンポジウムももちろん大事であるし、そういった町民向けの取り組みというか、町外から来られて高鍋に住まれた方は無料ですよみたいな取り組みも年に春夏秋冬ぐらいあってもいいかなと思います。

黒木町長 あのおっしゃるとおりだと思います。どう見せるかということというような形でそういう再発見できるような形になるのは大事だと思いますね。私、よく言うんですよ。歴史も単なる知識だけ持っている人とか歴史を逆手にとって不愉快にする人も逆にいたりする場合もあるんですよ。

歴史って歴史家の数ほど歴史があるらしくてこれ歴史の哲学の中であるらしいんですけど。その時代生きていた人は誰もいないわけですから今の目でどう判断するかになるんですよ。よくあいさつで必ず言うのが歴史とは今との対話である。歴史とは過去と現在の対話であって未来への道標であるべきなんだということですね。やっぱり常に今の時代から見てどうなんだというのが常にあるのが歴史なんだということですね。そこを認識しないとなんとなく昔は偉い人がいた、昔はこうだった、昔はああだったで終わってしまうんで。

歴史とは何かといったときには歴史は常に今との対話であるということですね。現在と過去との対話だということを忘れてはいけないということですよ。この歴史という言葉を使うにはそこが常にないと未来へつなぐものにならないということですね。どうもある意味反省しなくてはいけない、昔はこうだった、昔はすごかったとかあんな偉い人がいっぱい出たって言いながらどんどん城下町の風情を失い、ある意味では日南と差がついていってしまっているというのをですね。そのところなんです。常に現在との対話なんです。今との。今それが、今の時代にとってどうなんだというのをやっぱり見ていくのが大事なんです。おっしゃるように、今の視点でいろんな福智王伝説にしろ、いろんなものも見直して行って語りつないでいけるようなことにしていく必要があると思います。

あの同感でございます。具体的にやらないといけないと思っていますので。それが城下町シンポジウム、それが歴史と文教の城下町という捉え方ですね、具体的にやっていかなければならないと思っています。

島埜内教育長 ひとついいですか。先ほど出ましたキャリア教育とふるさと教育ですけど、確かに今、学校の様子を見てみるとやられているんですが、町長が言われるように高鍋の町という、この高鍋の町の良さという視点が確かに足りないような気がします。富山とか福井の様子を聞いてみるとキャリア教育を充実させて、それからふるさと教育の充実。そして子供達は都会に出るなら出なさいと。出て大学に行ってきたなさいと。でも大学を卒業したら、地域の地元の企業に就職しなさいというような、そういう思いがあるみたいで、その取り組みを色々聞いてみると、言われたようにその町の良さ、大人が一生懸命働いているそういった姿を子供たちに見せるということは本当に大事なことだなと考えます。

黒木町長 本当に教育長のおっしゃるとおりで、目標が故郷で生きていくというのを何度も言いますが、学校の先生、コーディネーターの方、あるいは地域の会社企業ですね、特にあれですね、富山県では子供たちにどこで職場体験、どこに行きたいというのを選ばせないんだそうです。そうすると会社によっては、うちは小さい会社だから子供達が来たら困るとか、もっと大きい会社とか、それもないようにしているんだそうです。だから本当に家族だけでやっている農家であってもさっき言った豆腐屋さんでもうどん屋さんでも行っていただく。

受け入れる方とは1回集まってこの目的は受け入れてお昼ご飯食べさせてお疲れさんじゃないですよ。ちゃんと子供達がここで生きて行くということはどういうことだと。ふるさとであなた達もここで頑張れよというようなことを伝えるためにやるんですよ。明確な目標を立てるんだそうです。これはとても大事ですよ。何のためにやるのか。だから95%以上のふるさとに対する就職率ですよ、富山県。ものすごいことだと思いますよね。

だから今、教育長がおっしゃったとおりだと思います。

杉田委員 いいですか。子供達が帰ってきたいというところにするためには、やっぱり家庭環境というのを整えておかないと、やっぱり親と子供の関係が悪いといくら帰っても地元に戻ってくるのは嫌だ、そう思う気持ちがあるとなかなかそういうのができてこないということで、やっぱり家庭環境を育てる。

それこそ親の人格を育てる、もちろん子供もですけど親の人格を整えるそういうことも大切になってくるのでやっぱり人格形成のこともなんかこう入れていきたいなと。

家庭環境の整備とか、そのようなものも盛り込んで行けたらいいかなと感じたんですけど。

黒木町長 おっしゃるとおりですよ。この4ページの目標5の学校家庭及び地域住民等が、これはあれですかね、もっと膨らませると言うか。おっしゃるとおりですよ。

特にこの教育的な配慮を必要とする子供等の支援というのがこの5ページの一番下の方にあるんですよ。特に最近読んだ本に書いてあったんですけど、発達障害ですかね、あれも実は母子関係がものすごく大事なんですよ。テレビをつけっぱなしで子供が見る番組が多いじゃないですか。もうずっとそれ見せてじっとさせといて、子供がああ母親に抱きしめてもらいたいと思っても一度もそういうことをせずにテレビの前にずっと座らせておいたり、こういうのって良くないんだそうですね。母子関係を作っていくということが大事だということを知りましたね。

親の立場で逃げるわけじゃないですけど、父親はあんまり関係ないと。母と子だという。そういう教育をしないと幼児期の保育園とか幼稚園で見受けられることがあるらしいですね。どうもその発達障害、なんか落ち着きがない、実はおっしゃったような母子関係とか、親との関係がうまくいっていないようなことがあると言うようなことをおっしゃっていました。そういう保育教育は母子教育と母親教育でもあると言うからですね。ただこれは、福祉課になるんですよ。教育委員会は小学校からだから。でも三つ子の魂百までで実はその幼児期が親と子の関係を形成するようなものすごく重要だと聞いております。そういうのがあるのかなと思います。学校の先生とかやっておられたら親子関係がまずかったかなと思う子がいたんじゃないですか。あんまり人のことは言えないですけど。

あのおっしゃるとおりだと思うんですよ。そういう文言というのは4ページの目標に入れられないですかね。

島埜内教育長 もし、今言われたようなことは環境の最たるものなので、施策の1の読書環境の下あたりに文言を入れたらどうですかね。

黒木町長 何かどういう文言にするといいですか。教育環境ですよ。

事務局(野中) よろしいですか。5ページの方が学校教育に関するところ、6ページが社会教育に関するところになります。杉田委員が今言われたところ、例えば家庭的なところになれば6ページの中に例えば家庭教育の推進といったものを施策の1もしくは施策の3のどちらかに盛り込むような形が良いかと思いますが。

黒木町長 3がいいかもしれないですね。そういう、家庭教育の推進。

やっぱり、特に今の若いお母さん達というのはみんな共働きで忙しい。若いお母さんとかはですね。

この間も、保育園でどうもその背中に子供に傷があるけどもタバコじゃないかと。お母さんは離婚しているんだけども彼氏がいる。どうもそうじゃないかと言う報告がありましてですね。警察に保護されて病院にも。たばこじゃなかったらしいんですけどね。そういうような疑いを持たれるというのは環境とかそういうのがあるんですよ。ただそういうような意味でも家庭教育が大事なんでしょうね。

島埜内教育長　まあそういった保護者の啓発も含めて、地域学校協働活動の推進及び家庭教育環境の充実ではどうですか。

黒木町長　及び家庭教育環境の充実。いいですね。地域学校協働活動の推進及び家庭教育環境の充実。

いかがですか。いいですね。ありがとうございます。

他にはどうでしょうか。

それではご意見も出ましたので、文言の修正がありました。地域学校協働活動及び家庭教育環境の充実ということでこの文言の修正についてご了承いただけますか。

(全員)　はい。

黒木町長　ありがとうございます。以上、この度の高鍋町教育大綱の改定についてご了承いただくことでよろしいでしょうか。

(全員)　はい。

黒木町長　それでは次に意見交換に移りたいと思います。今回は2点について意見交換を予定しております。まず東西中学校の統合を含む学校規模のあり方について本町の現状等について事務局から説明させていただきます。

事務局(野中)　それでは私の方から説明いたします。資料の4、学校規模の在り方についてと書かれましたA4の資料に基づいて説明したいと思います。事前に資料を配付しておりますので、簡単に説明いたします。

現在 二つの点から学校規模のあり方について検討が必要ではないかと考えているところです。表紙をめくって1ページをご覧ください。一つ目の理由ですけれども、黒木町長の施政方針、その中で達成すべき目標というのを掲げられておられます。文教のまちの再生教育支援というものの中に高鍋高校と東西中学校の中高一貫教育の仕組みづくりの推進というものを掲げておられます。

2ページをお開きください。中高一貫教育の形態ということで三つの形態があります。中等教育学校、いわゆる五ヶ瀬中等教育学校方式。併設型中高一貫教育校については宮崎西高附属中学校と宮崎西高校、都城泉ヶ丘附属中学校と都城泉ヶ丘高校の形態。連携型中高一貫教育校につきましては、今年度の4月から串間市の県立福島高校と串間中学校の方で開始された形態となっております。

資料の6ページをお開きください。こちらには県立、宮崎県の高等学校の教育整備計画というものを載せておりますけれども、それでは県が中高一貫教育についてどんなふうを考えているかというものを掲げております。中等教育学校、併設型の中高一貫教育校については県内に3校設置していること、あと少子化等のことを考慮して新たに設置する予定はないとなっております。連携型の中高一貫教育校につきましては、地域のニーズ、実態等を勘案して、高校の魅力づくりの視点を踏まえて検討したいとなっております。

それで、教育委員会では中高一貫の研修にあたりまして串間市への視察、県の教育委員会

との意見交換会を行って参りましたけれども、この中で意見として頂いたのは、連携型の中高一貫教育を実施するにあたっては、一中一高方式、一つの中学校と一つの高校との連携方式が望ましいとのご意見をいただいたところです。このことから中学校の統合というものを検討する必要があるというのが一点目の理由です。

二点目の理由につきましては、先ほどから出ております人口減少についての考え方です。

7 ページ 8 ページに人口減少の資料を載せておりますが、9 ページに東西中学校の生徒数の推移、今後の見込みをあげております。平成 41 年につきましては 500 人程度に生徒数が減っていくだろうという見込みとなっているところです。10 ページには平成 29 年 5 月 1 日現在の児童生徒数と学級数について載せております。東西中学校につきましては、いずれの学年、通常学級は 3 クラスずつとなっております。

12 ページをお開きください。こちらには国が示す学校の適正規模というものについての考え方を載せておりますが、小学校の学級数は 12 学級以上 18 学級以下を標準とする、中学校についてもこの規定を準用するという規定がありますので一学年の学級数からすると小学校につきましては 2 から 3、中学校については 4 から 6 学級が適正規模という形で国は考えているようです。ただ、地域の実態等特別な事情があるときはこの限りではないというただし書きはございます。13 ページに仮に小学校、中学校を統合した場合、これは 29 年 5 月 1 日現在の児童生徒数で計算をしておりますが、中学校をひとつにした場合には各学年とも通常学級は 5 クラスということになり、適正規模の学級数となりますということです。

14 ページをお開きください。規模の適正化が課題となる背景ということで書いておりますけれども、子供達が集団の中でいろんな考え方に触れることで成長していくという学校の特性を踏まえれば、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましい。特に中学生につきましては、社会性を身につけるという観点もございますので、少ない学校で、例えばクラス替えとかがなかなかできないような規模よりも一定の規模が確保されている方が望ましいという考え方です。今後、本町においても少子化が進展することが予想される中においては、将来にわたって検討していかなければならないという背景がございます。

最後のページ、15 ページに基本的な考え方を載せております。二つの観点から適正化を考えましょうというものでございます。一つは教育的な観点ということで、学校というのはい言うまでもなく教育施設でございます。より良い教育環境作りの観点を中心に捉えて規模の適正化を考えましょうというのがひとつです。子供達にとってより良い環境づくりのための規模の適正化というもの。

もう一点が地域コミュニティの観点からということで、学校というものは教育施設としてあるだけではなくて、例えば地域の避難所であるということの防災施設でもあります。または、地域の交流の場など様々な機能を持っておりますので、地域コミュニティの観点からも規模の適正化を考える必要があるということでございます。こういったことを踏まえて教育委員会としては、保護者の声であったり地域住民の理解協力を得ながら地域とともにある学校づくりの視点を踏まえた議論を行う必要があるのではないかとというのが考え方でございます。

以上、事務局からの説明でございました。

黒木町長

はい、ありがとうございます。高鍋町は非常にコンパクトで、宮崎県で一番面積が小さくて。小学校二つ、中学校一つになっても、串間でも中学校はひとつになってバスで通学していますけど、高鍋はまあ十分それは可能でしょうし、あと加えると部活動も、今、バレー部もないバスケ部もできない、野球も人を借りてやっている、私どもの小さい頃か

らするとびっくりするくらい部活動もできない状況があるそうです。それとクラスが多い方が学力も競争しあうということもあります。将来的に少子化の流れを見ますと中学をひとつにする、そして高校の近くにそれを持ってくることで高校との流れを良くする。それから中高一貫のあり方を考える。小さな町でするので不便になることは基本的にはないんじゃないかなど。小学校は二つ、中学校一つで行こうというふうなことを今説明していただいたわけでございます。この件、ご意見ございましたら、色々あるところかと思えますけど。意見がない時は、教育長、何か補足とかございませぬか。

島埜内教育長

今、野中課長が説明したとおりですけど、現在、四校のPTAの役員の方に行って意見を聞いて集約中ですが、色々な意見がありまして、もちろん賛成の意見もあるんですけど、まだ時期尚早ではないかと言ったご意見とか、高鍋高校に行く生徒を多くするための施策として中高一貫をやるならば、高校の方はいかが考えたらいいのだろうかというような意見ももらっておるところですが。また、町長の方には詳しく報告をしたいと思うんですけど。

今、説明会に行った限りではそういった状況があります。以上です。

黒木町長

私としては待ったなしでやらないと、本当に何でしょうかね、子供達が部活もできない。高鍋だったらすぐ一つにしても、距離感、問題もない部分ではあると思うんですけど。ただやはり、自分の母校がなくなるとか色々ご意見も出てくる問題ではあるんですけど。

いずれにしろ、そういう時代が来ているのは間違いなくて、もう待ったなしだと私は考えているところです。

黒木委員長

地域住民の考えというのは、学校がなくなるというのはあれですけど、小学校が残れば、どっちの学校にしても、その一緒になっても適正規模ですよ。だから西も東も小学校が残るとすれば、あまり大反対は起こらないのではないかなと思えますけどね。合併してちょうどいい中学校は。そういう状況ですね。

黒木町長

切磋琢磨する上でも人数はやっぱりある程度ないと、部活もなくなっているというのは、ちょっとびっくりするような状況と想ったりします。

島埜内教育長

ちなみに、今年、私立中学校、それから県立中学校に進学予定が10人を超えたんですよ。その中に今までは学力の面の子供達もいたんですけど、部活動で、私立中の野球でしたか、サッカー、野球とかに行く子たちも数人でできてきているというような状況ですね。

黒木町長

私としても待ったなしで早急に取り組む。また、高鍋は取り組める面積だと思うんですよ。歩いたり、自転車でも来れる距離の場所にあるなど。私は小学校は東小で中学校は西中だったんで、どちらでも行ける場所にあったんですけど。串間なんかはあんなに広くて中学が一つというのは、バスに皆さんを乗せて、スクールバスになったんですよ。あそこはひとつにする必要があったのは、人口減少があったんですね。

島埜内教育長

この前、今申しましたように役員の方々の説明の中で、高校側の方はじゃあ、どう考えたらいいのだろうか。こちらが一中になって切磋琢磨していわゆる成績も向上したというような状況の時に、はたして高鍋高校あるいは農高の魅力的にはどんなものかという質問がたくさん出たということですね。

黒木町長

ただ、高校との一貫の流れも作るとした時にはどういう乗り入れの仕方ですよ。高校の先生が中学校に来て授業をして交流するとか、いろんな方法があるみたいですけど、文部省のいろいろ法律もあるでしょう。いろいろあるんでしょうけど、そういう意味で取り組んでいる先進地も多々あるようでございますので。

四角目委員　　ひとついいですか。連携型の福島高校がなってまだ日が浅いですよね。それで、一般入試が今年二人なんですよ、希望者が。なんかそういうのを聞いたらすごいショックを受けてですね。やっぱり、どういう風にして行ったらいいのかなと本当に真剣に悩むんですけど。やっぱり高校の魅力と言うか、やっぱり行きたいと言う魅力を作っていけないと非常に難しいなと感じるんですよ。

一番手っ取り早い方法は高鍋町が県の教育委員会に行って人材と言うか、魅力ある先生をたくさんくださいと。それが一番、まあ言葉は悪いですけど、それが一番手っ取り早く作っていけるのかなと。やっぱり高校の魅力を作っていけないと非常に厳しい気がします。

黒木町長　　実際、去年1万円を高鍋高校と農業高校にも出すということで、まあお金出してどうなると思うけど、周りがみんなやっています、農高の校長はものすごく喜んでいました。

あれで遠い子が来たと言っていましたので。我々は高鍋農業高校も抱えていますので、よかったなと思っていますし。でも高鍋高校もおっしゃるとおり、中身、高校の魅力ですよ。そこに繋げていく努力をしていきたいと思います。

島埜内教育長　　そういった要望は高校に対して発信していかなくちゃいけないと思います。

黒木町長　　こういうあり方でよろしいですかね。私の時間の割り振りが悪くてこんな時間になってしまって。またご意見ありましたら色々聞かせてください。反対される方が出てくる可能性もありますけれども、私はもう待たないでやらないと後であの時やっておけばよかったという時に、もう、高鍋高校も都農高校の二の舞になるような時代ですね。妻高との争いとかですね、あの辺も宮崎にいっぱい行くらしくていろんな戦いがあるみたいですから。すいません、よろしくお願いします。

それでは文化財ですね。続きまして、この指定文化財等の保護・活用についてでございます。事務局から説明をお願いします。

事務局(野中)　　この点は、先ほどの神楽の件を町長から・・・

黒木町長　　そうですね。先ほど神楽の話の大綱の中にあつたその点でちょっと説明して、国指定の文化財にということで取り組んで、あと4、5年のうちには高鍋神楽が国指定の文化財になる。そのあとユネスコ遺産になっていくだろうということで。わたしからの投げかけとしては、どうか中学校か小学校ぐらいで神楽、高鍋の文化保存サークルとか熱心な先生がいたりして作っていただくと。高鍋神楽も役場の森君というのと宇田津さん兄弟とあの辺ぐらいしかいないじゃないかなと思ってですね。

あれ、学校なんかでそういうサークル作るっていうのはどうなんですかね。

島埜内教育長　　なかなか、みんな部活動とか忙しいからですね。部活動の加入率が90%ぐらいありますからね。

黒木町長　　そういうものを授業に入れたら授業にならないとなりますかね。

島埜内教育長　　一回入れたことがあるんですよ。あと、こういう例があつて、鳴野の人達が棒踊りの指導に来て下さるのが大体朝の7時頃。それで、職員がだれか付かないといけませんよね。職員の方としては時間外にという思いがある。棒踊りの人としてはわざわざ来ているのに職員が付かないがという思いがある。そういったふうないろんな問題があつて、言われるように社会のサークル活動にして、棒踊りの方がすべて責任を持って指導するというようなことで募集はかけられるといいですね。

黒木町長　　あの、鳴野に行って棒踊りの人達も後継者がいないとみなさん言われるんですよ。

島埜内教育長　　何とかなるといいのですけどね。

黒木町長 月1回とかでもですね。  
島埜内教育長 それだったら可能だと思いますね。  
昔は神楽とかどのように募集してたんでしょうね。宇田津さんとか森君が入っているのは自分から？

稲井課長 個人個人で入りませんかみたいな感じですね。うちの森君の場合は永友丈晴さんの奥さんの方の関係の遠縁とかそんなので始めた。宇田津さんの場合は、愛宕神社の総代をされていましたので、その関係とかです。

島埜内教育長 今の点は、校長先生にも投げかけて意見をもらってみます。  
黒木町長 子ども神楽とか棒踊りとか・・・  
小泉委員 高鍋は子ども神楽があるんですか。  
四角目委員 檜室先生の子どもの間舞ったんじゃないですかね、あそこの神社で。  
島埜内教育長 六社連合のですかね。  
杉田委員 敷居が高い気がするので、もっと親しみやすいものとして皆さんに説明されると、もう少し受け入れやすくなると思うんですけどね。そんなに難しいものではないよという所から入っていくといいような。なんか神社の親戚の方じゃないと踊らないのかなみたいな感じが私たちはします。

黒木町長 その辺を取っ払っていくと違ってくるのかなと思います。  
四角目委員 今、太鼓とか習っている子はいますからね。  
杉田委員 定期的に練習していればですね。小さい子どもが行けるけど、高千穂みたいですね。  
四角目委員 やっぱり神楽の時期とかに・・・

いや、1年中やっぱり練習しているから。テレビに出たりしたら私もあの人のようになりたいと言って、今すごく子どもが、小中学生が多いですよ。

杉田委員 有名になって見る機会を多くすることで、皆さんの意識をですね・・・  
島埜内教育長 都農の浦安の舞は都農高校がしていましたね。  
黒木町長 高校にさせるという手もありますか。いろいろと探っていないといけませんね。  
せっかく国の指定文化財になったのに後継者がいないとなると。  
他にご意見よろしいでしょうかね。以上でよろしいですかね。平成29年度の高鍋町総合教育会議を閉会といたします。本日はどうもありがとうございました。

(閉会 午前11時55分)